



様式第2号

令和2年10月21日

坂戸市議会議長 様

会 派 名 公明党
代表者名 古内 秀宣



実 施 報 告 書

下記のとおり、調査研究等を実施したので報告します。

記

- 1 期 日 令和2年10月15日(木) 午後1時30分～3時30分
- 2 参加者氏名

古内秀宣	藤野 登	柴田文子	野沢聖子

- 3 調査研究等の行き先及び内容

行き先	内 容
坂戸市役所 本会議場	坂戸市議会議員研修会 「最近の災害等とその対応～消防を取り巻く変化と 気象災害～」

- 4 概要
別添のとおり

坂戸市議会議員研修会結果報告

- 1 日 時 令和2年10月15日(木) 午後1時30分～3時30分
- 2 行 先 坂戸市役所本会議場
- 3 内 容 「最近の災害等とその対応～消防を取り巻く変化と気象災害～」
- 4 内容についての概要

坂戸市議会議員研修会では、前記内容について、一般財団法人全国市町村振興協会理事、元消防庁長官、気象予報士坂本森男先生より講演を聴取し、質疑・応答を行った。

説明及び主な質疑は次のとおりである。

(1) 「最近の災害等とその対応～消防を取り巻く変化と気象災害～」

ア 講師紹介

1955年埼玉県秩父市生まれ。東京大学法学部卒業後自治省入省、石川県総務部長、千葉県副知事等を経て、2014年消防庁長官就任翌年退官、気象予報士

イ 「コロナ感染症について」樽見英樹前内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室長の講演より（私感を交えて）

- ・感染拡大のピークは、4月と7月。20代の感染は圧倒的に多いが、30代以下の重症者はゼロ。陽性者のうちの死亡率は全体で1.9%（10人に1人が70代）重症者は20日遅れてピークがくる。春は6%の死亡率だったが治療方法の治験が増えて、夏は0.9%まで低下している。
- ・特徴は、スーパースプレッダーは発生していない（陽性者5人のうち、1人しか他人にうつしていない）。感染のリスクが高いのは飲酒、会食、イベント等であり、日本は、文化・生活様式から人と人の感染は少なく予防でリスクを減らすことが可能である。
- ・今後は、感染防止との両立が重要。無症状等全ての人にPCR検査を実施する必要はないのではないか。対応のコントロールができる範囲が妥当ではないか。インフルエンザ陰性者に、PCR検査の意味があると考える。
- ・コロナウイルスワクチンについては、予防としての効果か、重症化防止の効果があるか現在は確定していない。（重症化しやすい）高齢者をケアする人に、ワクチンをどう打つかが問題である。
- ・コロナと両立の生活では、8月以降自殺者が前年を上回る。有名人の自殺の影響は大きい。

ウ 「最近の災害等とその対応～消防を取り巻く変化と気象災害～」

(ア) 消防を取り巻く「変化」

- ・近年の「変化・多様化する災害」は、風水害の多発化、大雨発生数の増加、台

風の進路の変化、火山噴火の懸念、多様な火災の発生等のリスクが高まっている。理由として「温暖化」がいわれているが、それだけではない。人が住んでいなければ災害にはならない。人が影響を受けて初めて「災害」となる。人が住めなかった所に住んでいるから災害が増えている。

- ・社会全体の変化では、人口減少・少子高齢化、アフターコロナで動きが変わる可能性があるが現状では地方部の過疎化・空洞化・高齢化と都市への人口集中、災害に対する人々の認識、最先端新技術の活用等があげられ、求められる消防活動が拡大・多様化し常備の消防体制だけでは間に合わないのが、現状である。

(イ) 消防の活動事例

- ・平成30年9月北海道胆振東部地震
- ・令和元年7月京都伏見区の爆発火災
- ・令和元年10月台風第19号及び前線による大雨など
- ・「緊急消防援助隊」は全国に6400隊登録されており、有事の際に結成され、主に政令市が所管している。

(ウ) 地球温暖化と気象災害について

- ・原因については諸説あるが、年平均気温が上昇し水蒸気を多く含むことで、気象の状況が変化する。地球的な規模から局地的な規模に至るまでいろいろな現象が重なり合い、災害級の気象現象を起こす可能性がある。
- ・一般的には、真夏日、大雨やドカ雪の回数増加等変動の幅が増加している。
- ・埼玉県は地形特性は、北側に越後山脈、西側に関東山地、北東側に阿武隈高地、南東側に房総丘陵等に囲まれている。そのため、明治43年洪水、昭和22年カスリーン台風、平成27年関東・東北豪雨、令和元年台風19号等いずれも前線の複合作用による気象災害が発生している。

(2) 質疑応答

問 緊急消防援助隊の出動について

答 招集は、長官の指示と救助の求めによるものと二種類ある。ハイパーレスキュー体制のため、通常の災害や広域災害には発動されない。

問 線上降水帯について

答 水蒸気が供給される環境が整わないと発生しない。春は九州地方に多く、秋は台風の影響によることが多い。

5 感想・所見

新型コロナウイルス感染拡大の影響により各種研修等の中止が相次ぐ中、講演の機会

が持たれたことに、大変感謝している。元消防庁長官、気象予報士である坂本先生による講演は、気象的解説も消防活動における説明も大変詳しく、分かりやすかった。

近年の多様化・大規模化・激甚化する自然災害については、気象の変化が原因ではあるが、人々が災害が起きる場所に住んでいるから、「災害」になる、という指摘は大変興味があった。土砂崩れの現場の映像を見るたびに、文字通り危険と背中合わせに、人々の生活が存在している現実を実感する。森林伐採や開発優先の社会から、地方の過疎化・都市部の人口集中など社会全体の変化により、災害が複合化し、そのため消防活動の拡大・多様化が求められている。坂本先生の講演の通り、もはや「常備」の消防だけでは対応は不可能であり、改めて社会全体も個人も意識の変革と共に、適切に備える力「自助・共助・公助」が試されていると感じる。

講演の最後に語られた、災害対応では「空振り」VS「見逃し」があるが、空振りを恐れず、様々な事象にオーバーアクションで対応すべきである、とのご指摘通り、市民の命と健康そして財産を守る、行政の使命と役割の大きさを再確認することができた。この度の貴重な講演を今後の議会活動に活かして参りたい。